



●議員は原則2期・最長3期で交代 ●議員報酬は市民の活動費 ●選挙はカンパとボランティアで

つくば・市民ネットワーク通信

発行：つくば・市民ネットワーク
Tel&Fax:029-859-0264
つくば市二の宮2-1-3クラフトビル1F
tsukubahotnet@ybb.ne.jp
https://tsukuba-net.jp



2023年4月19日 vol.75

投票率が低いのは 県政が見えないから!

昨年の県議会議員選挙の投票率は38.54%と過去最低。県政が県民から非常に遠くなっていると言えます。県政は日々の暮らしに大事な事業や計画が決められており、1兆3千億円もの税金が使われているのに。

そこで県政の見える化を進めるため、うののぶこは最初の一般質問で、多くの都道府県にあって茨城県にはない「**審議会等の公開制度**」を**定めるよう提案**しました。

ところが大井川知事は「私は報道機関への積極的な情報提供に努めている」「改めて会議の公開に係る基準を明文化する必要はない」とショーゲキの答弁。県政は知事が一人で決めているのでしょうか? ➡

審議会等で県民や有識者の議論を元に政策を作っているんじゃないの? だから政策決定過程が県民に見えないのか! と、茨城県政の根本的な問題の一端が見えてきました。

審議会等の一覧が公表された!

予算特別委員会でもこの問題を追及した結果、最終日の3月24日、「県のホームページに審議会等の一覧を掲載した」と担当課から報告がありました。まだ議事録が公表されていない会議もあり、引き続き公開制度を求めています。



うののぶこ
一般質問



県HP
審議会一覧

茨城県議会 うののぶこ 一般質問 (2023.3.7)



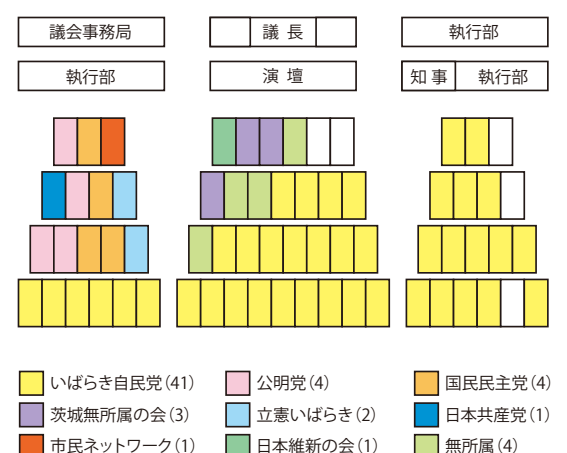
共通テーマは少子化対策...

会派代表質問、一般質問、予算特別委員会の議論を通じて、党派を超えた共通の課題も出てきました。それは少子化対策です。そこで、「**誰もが輝く持続可能な茨城を担う人づくり調査特別委員会**」が議長提案で設置され、市民ネットのうののぶこも委員になりました。

しかし、**委員15人中、女性議員は2人だけ**。本当に少子化を何とかしたいなら、6人いる女性議員を全員入れるべきです。高齢の議員も多く、このメンバーで今の時代に合った少子化対策が提案できるのでしょうか。

市民ネットでは、せめて委員外の女性議員の意見も活かし、広く多様な県民の皆さんの声を集めて議論する特別委員会になるよう、提案していきます。

茨城県議会議員席表 (2023年4月3日現在)



うののぶこ
県議会レポート vol.1



つくば・市民ネットワーク
会派通信 2023年 春

議員と話そう会 改め

まちづくりカフェ

5月15日(月) 10時~12時 荃崎交流センター 工作室
5月21日(日) 14時~16時 市役所コミュニティ棟 会議室5
5月22日(月) 10時~12時 co-en(コーエン) つくばセンタービル1F

県議会・市議会の報告を兼ね、市民ネットの代理人(県議・市議)を交え、様々な情報と意見交換を行います。

「ともに創る」パートナーはだれ?～会派代表質問

つくば市では毎年3月議会で翌年度の施政方針が発表され、その方針に対して、「会派代表質問」で質問、意見、要望を行います。今年の施政方針では「ともに創る」という取り組みが打ち出されました。だれと「ともに創る」のか? 市民ネットは「市民と創る」と考えます。

地域交流センターを育てよう!

地域交流センターを地域のコミュニティづくりの拠点としたい、という多くの市民の要望がついに実現します。今年度から交流センターにだれもが集える交流スペースができる、福祉的な相談ができるようになる、などを確認しました(詳細は広報つくば4月号をご覧ください)。ぜひお近くの交流センターに出かけ、気軽に集い、相談できる場を一緒に創っていきましょう。

「気候市民会議」は大きなチャンス

市民ネットが提案してきた「気候市民会議」が今年度実現します。18歳以上の全市民から無作為抽出で選ばれたメンバーが気候を取り巻く問題を話し合い、市への提言を出すものです。市長は、その提言を政策に活かしたい、また事前・最中にも積極的に広報を行っていく、との前向きな答弁でした。市民会議は市民が政策を創る大きなチャンスです。関心を持つ市民が増えるよう働きかけていきます。

スーパーサイエンスシティの事業、市民意見の反映は?

スーパーサイエンスシティ構想では事業の実施は「区域会議」で決定されます。この会議は大臣、関係する企業等が集まる場で、つくば市からの代表者は市長のみ。そこにどのように市民意見を反映するのか、という質問に対し、市長が直接意見を聞きに地域へ出向くという答弁でした。しかし、地域の集まりに行けない市民の意見をどう反映するかという課題があります。

また、スーパーサイエンスシティの事業としてインターネット投票を進めようとしています、それよりも、まずは移動投票所の設置や主権者教育を充実することを提案しました。

他、様々な質問をしましたが、中でも市の事業を担う職員の半数が会計年度任用職員(非正規)であることは大きな問題です。この問題は、毎年会派代表質問で取り上げています。今年は専門職の職員の実態調査(勤続年数等)を要望し、検討するとの答弁でした。

その他、次の事業を取り上げました。

▼高エネ研南側土地で市が利用予定の防災施設整備計画▼継続した子育て支援
▼不登校対策▼公共施設のバリアフリー▼労働者協同組合



つくば市議会議員
福祉保健委員会委員
あさの えこ

会派代表質問項目

- ・徹底した行政改革
- ・安心の子育て
- ・頼れる福祉
- ・便利なインフラ
- ・活気ある地域
- ・誇れるまち



つくば市議会議員
都市建設委員会委員長

皆川ゆきえ

一般質問項目

- ・福祉支援センターやたべの同日利用
- ・公立保育所の存続
- ・公立高校への通学利便性向上

そこで、バス停の増設などを含め、柔軟に対応を検討するよう要望しました。

2点目の通学定期の値下げについては「つくバスだけの対応では公平性が十分ではない。通学にかかる費用が家庭負担となっていることは認識しており、関係各署と検討していく」という前向きな答弁がありました。

高校生の通学バスの利便性向上と費用軽減を!

市内の公立高校不足問題は住民の大きな関心事になっていますが、一方で定員に満たない公立高校もあります。電車やバスが高校の近くまで通っていなかったり、自転車通学で10kmを超える場合もあり、「通学のしにくさ」が定員割れの要因の1つだと考えられます。その改善策として、市として対応が可能な次の2点について3月議会で質問・要望しました。

1) TX各駅から市内にある県立高校まで、つくバスでのアクセス向上(例:時刻表の見直しや、高校近くのバス停の設置など)

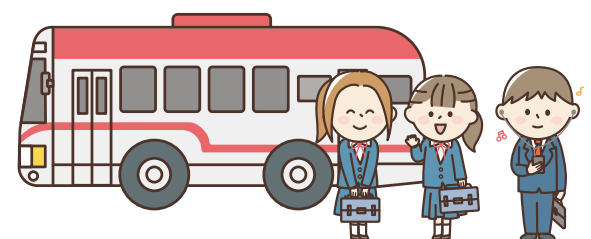
2) つくバス通学定期の値下げ

まず1点目のアクセス向上については、執行部から「つくバスのルート変更は既存の利用者への影響が大きいため、慎重な検討が必要。まずはバス通学を必要とする生徒数や希望バス時刻を高校に確認した上で、方策を検討したい」との答弁。

高校の授業料無償化とはいうものの所得制限があり、その他に学用品代、修学旅行費、部活動費、施設整備費などの費用がかかります。さらに、塾代、スマホ代など、経済的負担は子育て家庭に重くのしかかっています。

つくバスの場合、定期代は月に6千円以上、路線バスやスクールバスを利用する場合は月に2～3万円程度かかることもあります。通学定期代だけでも軽くなれば、子育て家庭の負担軽減につながります。

1年間に生まれる子どもの数が80万人を切り、少子化問題がさらに深刻になっている今、子育てにかかる経済的負担を減らし、子どもを産みたいと思える環境を整えることが急務であり、引き続き要望していきます。



付帯決議を提出

このままではいけない! 個人情報保護法施行条例

公害防止条例、景観条例、空き家条例……地域の行政ニーズに対応しようと自治体が国に先駆けて制定してきた条例の中に「個人情報保護条例」もありました。しかし、官公民共通のルールによるデータ流通を促進するため、2023年度からは国の法律に一本化されることになり、それに合わせた新たな条例が提案されました。

個人の権利利益を保護することを最優先にした条例を制定してきた先進自治体を中心に、一本化後



の対応をどうするかが話し合われてきました。残念ながらつくば市においては一本化されることに対して批判的に議論されることはほとんどありませんでした。

今後、つくば市は「スーパーシティ特区認定」を受けたことで個人情報利活用の実験場となっていきます。このままではいけない!と、先進自治体での取り組みを参考に、必要に応じて条例改正も視野に入れた調査研究を進めるよう付帯決議を提案し、可決となりました。

児童発達支援事業と放課後等デイサービス、大丈夫??

「9割公費で失敗しない国策事業」「2か月で黒字化」などという宣伝文句が並ぶのは、児童発達支援事業（以下、児発）や放課後等デイサービス（以下、放デイ）業界です。児発とは療育が必要な未就学児に通所で発達支援を行うもの、放デイは就学後の小中高校生に必要な療育支援を行うものです。

このような障害児通所支援事業のニーズは年々高まっており、とくに子どもの数自体が増えているつくば市においては、児発で9億円、放デイで10億円と新年度予算も大きな額になっています。熱意を持って良心的に運営を行っている事業者がほとんどですが、不正受給等の問題で指定取消処分を受ける事業者もあり、つくば市でも無資格職員の配置による不正受給でネットニュースになった事業者がありました。

事業者に対し直接権限をもつのは県ですが、実際に相談窓口となり、給付費を支払うのは市町村です。不適切な事業者から子どもたちを守るために、市が主体的に指導と監査をする必要があると考え、さまざま確認と要望をしました。

とくに職員による虐待、人員基準違反による不正請求に対して厳しい態度で接することはもちろん、指定時のチェック体制を強化すること、またそもそもの目的である発達支援の質の向上に寄与するよう要望しました。

ワクチン後遺症の相談窓口を！

新型コロナワクチン接種後の長引く体調不良について、名古屋市が独自に健康相談窓口を開設したところ、「ワクチン後遺症」に苦しむ方々からの相談が多数寄せられているということです。また、私が以前から取り組んでいるHPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）による後遺症も近年、接種者数の増加に伴って新たに副反応の疑いで受診する若い女性が増えています。この二つのワクチンについて、厚労省が公表しているデータを用いて問題点を指摘し、後遺症に苦しむ方々の相談体制を強化するよう、提案しました。



つくば市議会副議長
総務文教委員会委員
小森谷さやか

- 一般質問項目**
- ・児童発達支援事業と放課後等デイサービス事業
 - ・児童クラブの日中開放
 - ・新型コロナワクチンと子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)接種後に起こる様々な症状
 - ・マイナンバーカード



つくば市議会議員
市民経済委員会副委員長

川村 直子

一般質問項目

- ・誰もが健診を受けやすい体制づくり
- ・放射性汚染土の安全性実証実験
- ・洞峰公園問題の進捗

8000ベクレル以下の「除染土」の再利用は安全か??

福島第一原発事故後、放射性物質に汚染された「除染土」は福島県内に山積み状態です。2022年、国は、1kgあたり8000ベクレル以下の除染土を所沢市、新宿区、つくば市の3箇所へ搬出し、安全性の実証事業を行う計画を公表しました。つくば市には環境省から「福島県外での最終処分・再生利用を進める一歩としての事業。つくば市内にある国立環境研究所の敷地内を掘削し、8000bq以下の土を埋設予定で、詳細は検討中」等の説明があったとのこと。

二重規範のままで全国にバラ撒く??

国は原発事故後、非常事態宣言の下、2011年11月制定の「放射性物質汚染対処特別措置法」で、8000bqを超える放射性廃棄物は特別な管理が必要と決めました。それを根拠として8000bq以下は一般的な処理方法（分別、焼却、埋立処分等）にて処理できるとしています。しかし、8000bq基準はあくまでも非常時の特別措置であり、原発事故前から「原子炉等規制法」は放射性廃棄物を安全に再利用出来る基準を100bqと定めています。再利用等には本来の100bqを遵守すべきです。いつまでこの二重規範を続けるのでしょうか。

今回の実証事業は、2014年「放射性廃棄物は30年以内に福島県外での最終処分を完了する」と定められたこと、2016年の環境省方針「8000bq以下の除染土は、遮蔽及び飛散・流出の防止を行ったうえで、全国の道路盛土等の公共事業での再生利用を進める」に基づくものです。

しかし、8000bqの放射性セシウム134・137が100bqまで減衰するには170年かかるとの計算があります。一方、道路盛土の耐用年数は70年と言われます。地震も水害もいつ

どこで起こるかわかりません。170年に渡る完璧な遮蔽は不可能だと考えます。

今こそ原発事故を振り返り、市民の議論を！

所沢と新宿では12月に住民説明会が行われ、疑問の声が噴出しました。さらに説明会より前に、国が事業者と実施契約を締結済みだったと判明し、国会で大問題となっています。

つくば市は環境省に「市内で実施するならば、市民の安心・安全が大前提。国が責任をもって安全対策等を実施したうえ、丁寧な説明会開催など、市民へ積極的に情報提供し、理解を得るため努めるよう要請中」とのことですが、いまだ市民への情報提供はありません。

この事業は今後、放射性汚染土が全国へ拡散される契機になりかねない大きな問題です。さらに除染の実施により、原発事故をなかったことにするかのような国の思惑も垣間見えます。放射性廃棄物発生の主な原因は原子力発電所の稼働であるため、今こそ、市民による議論が必要であると考えます。



2023年3月議会議決結果

議決の結果 (○：賛成、×：反対)		会 派 名	つくば・市民ネットワーク	つくば自民党	自民党政清クラブ	公明党つくば	創生クラブ	日本共産党つくば市議団	つくばチェンジチャレンジ	清郷会	山中八策の会	新社会党つくば
議案第8号：令和5年度つくば市一般会計予算	可決		○	○	× ○：木村修 欠：宮本	○	○	×	○	○	○	○
議案第29号：つくば市個人情報の保護に関する法律施行条例について	可決		○	○	○ 欠：宮本	○	○	×	○	○	○	○
各会派の所属議員(敬称略) *は会派代表（議員数26議長：小久保）			*皆川、あさの川村、小森谷	*黒田、長塚、神谷五頭、久保谷(小久保)	*飯岡、宮本木村修、塚本鈴木	*小野浜中	*高野小村中村	*橋本山中	*川久保	*木村清	*塩田	*金子



2023年4月19日 Vol.75

主な活動報告

- 1/13 臨時市議会
- 1/16 全国市民政治ネットワーク幹事会出席
- 1/17、3/23 障害×提案=住みよいつくばの会参加
- 1/20、23 臨時茨城県議会
- 1/24 「障害ある子の 親なき後に…親あるうちにできること」開催
- 1/25 茨城ネットワーク運動連絡会出席
- 1/28 「夢みる小学校」上映会開催
- 2 /5 県議選報告会開催
- 2/11 第2回洞峰ワークショップ参加
- 2/14～3/24 つくば市議会3月定例会
- 2/28～3/24 茨城県議会第1回定例会
- 3/11 さよなら原発!守ろう憲法!つくば集会参加
- 3/12 つくば市民ネットワーク第19回総会開催
- 3/15 生活クラブ運動グループ協議会出席
- 3/17 「基礎からわかる原発問題(小川仙月さん)」開催
- 4/ 9 「原発再稼働～葬られた過酷事故の教訓～(日野行介さん)」共催

※テーマごとの部会活動の他、市の各種委員会・審議会等も多数傍聴しています

環境ごみ部会

ごみゼロカフェ開催!

市民ネット事務所で3/17開催! 大学生～80代まで総勢17名が参加。普段の生活でもややもやしていることが書ききれないくらい出てきました。まさに暮らしは政治。やっぱりもっとこうしよう、もっと呼びかけていこう、など心新たにされた方も多かったようです。また開催したいと思います。

小4でゴミの勉強はするが、その年だけなので、大人になる頃にはすっかり忘れていて身についていない。中学校や高校で学びなおすと良い

なかなか普及しなかった「マイバッグ持参」が有料化で一気に進んだ。(有料化は)問題に気づく手段かもしれない

みみずコンポストがとてもよい思っていて、小学生の自由研究用キットを作りたい(現役大学生のアイデア)

家庭ではしっかり分別しても、勤務先の事業系ごみがとても気になる

生ごみをダンボールコンポストで減量したら、ごみ袋が軽くなり出す回数も減った

廃棄物の最終処分を山形、秋田、青森にお願いしている状況。全国的にあと20年でどこもいっぱいになってしまう。減量を進めるには有料化しかないのでは

ダンボールコンポスト講習会

参加費無料 要申し込み

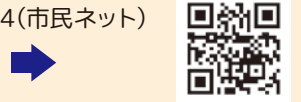
2023年5月18日(木)
10:30～12:00

つくば・市民ネットワーク事務所
(つくば市二の宮2-1-3 クラフトビル1F)

上記日程でご都合のつかない方は、別途、講習会を計画できますので、お問い合わせください。お申し込みは、

TEL:029-859-0264(市民ネット)

またはこちらまで。



市民ネットのダンボールコンポストがつくば市みんなのSDGs部門で銀賞を受賞しました

高齢福祉部会

地域で暮らす★まちづくり 高齢福祉部会カフェ

桜満開の3月、高齢福祉部会カフェを開催しました。市民ネット通信を見て参加した方、知人に誘われて参加した方など、40～80歳代まで総勢19名。参加のきっかけは様々でしたが、共通するテーマは「高齢になっても地域で暮らせるまちづくり」。



それぞれの思いを自己紹介した後、4月からスタートする「地域交流センターでの居場所事業、相談事業」について意見交換をしました。「交流センターで介護保険など、福祉の相談ができるようにしてもらいたい」「地域コミュニティを作るために、まずは自分が得意なこと、折り紙とか、そろばんなどを教えることからスタートしてはどうか」「高齢者が高校生からスマホを教えてもらうのもいいね」など、交流センターを活用するアイデアが次々と出てきました。

住民同士がつながり、アイデアを出し合い活動し、時に行政に働きかけたり、一緒にまちを創っていききたいと思います。ぜひ部会へのご参加、お待ちしております。

傍聴記

僕は、今まで市議会を何度か傍聴したことがあり、今回初めて県議会に行きました。これまで市議会を傍聴していた時に、市では政策や計画などの限界を感じる事がありました。しかし、市から県という今までより大きな単位になった場に行ったことで、県政を通して市政を見ることができるようになりました。うののぶこさんの一般質問は、つくば市や県政の改善点がとてもわかりやすく質問にまとめであり、より県についての理解が深まりました。次の一般質問も、傍聴しに行きたいです。(中学生)

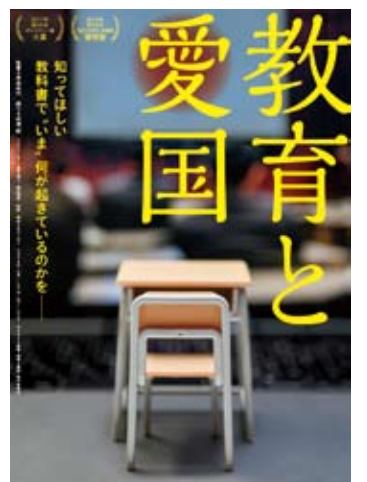
知ってほしい
教科書で“いま”何が起きているのかを—
ドキュメンタリー映画

「教育と愛国」上映会
(107分)

6月2日(金) 19:00～
アルスホール

6月3日(土) 13:45～
つくば研究支援センター 研修室A
(つくば市千現2-1-6)

要申込: 右の申し込みフォームから。または、
市民ネット事務所 (029-859-0264) まで
入場料: 500円 大学生以下と障害者の方は無料
主 催: つくば・市民ネットワーク



申し込み
フォーム



インターン 体験記

つくば・市民ネットワークでは、若年投票率の向上を目標に活動するNPO法人ドットジェイピーの、学生を対象とした議員インターンシッププログラムに協力しています。今回参加した3人の大学生に、感想を聞きました。



私がこのインターンシップに参加して議員の方から学んだのは、「傾聴・学習・発信」のサイクルの重要性でした。市民からの声に耳を傾けその分野に関して情報収集を行い、得たものを議員・スタッフ間で共有しHPやSNSで情報発信する。それぞれの過程が高密度で行われており、私たちの生活に密着した政治の意義を確かに感じる事ができました。

今回の経験を通じ政治の世界を遠いものではなく、自分事として考えられるようになったと思います。(F.H)



私が活動をしていく中で印象に残ったことが「議員さんは人とのつながりをとても大事にされている」ことです。私のことを歓迎してくれたことはもちろん、様々な人と交流し、意見を交換し合う姿は印象的でした。市民活動は議員さんだけでは完結せず、我々市民と一緒に作り上げていくものなんだと感じた素晴らしい体験でした。(D.S)



インターンシップでは事務所での作業や議会の傍聴など多岐にわたる活動がありましたが、回を重ねるごとに市民ネットの方々の、小さな声にも耳を傾けようとする姿勢や弱い立場の人の味方であろうとする姿勢が伝わってきました。今回の活動を通して、自分に直接関係のない社会問題を他人事に考えるのではなく、もっと困っている他者に関心をもっていくことが大切だと学ぶことができました。こうした意識が社会を思いやりあるものへ変えていく一歩だと思います。(H.T)